



## 鯉のぼりのお話

鯉は古くから立身出世の象徴とされてきました。中国の故事、伝説から「黄河の上流にある龍門の急流をさかのぼることができた鯉は、龍になって天をかける」と言われ、出世のたとえに用いられるようになりました。日本において鯉が縁起物にされたのは、江戸時代中期とされています。五色の吹き流しは幼子の無事な成長を願って「魔除け」の意味で飾られるようになりました。

参照

～こいのぼりと五色の吹き流しの話～



## 廃材の回収のご協力

### ありがとうございます

廃材のご協力ありがとうございます。

ご家庭より様々なものが届いております。クラスのコーナーあそびや、異年齢でのあそびの中で使わせてもらっています。

保護者の方も面白そうな廃材があると、「これあそびに使えるかも」と、持ってきていただき、子どもたちのあそびを思い浮かべながら、協力していただいていることに、感謝しています。

廃材は切ったり貼ったり物を作ったり、失敗しても何度でも気兼ねなく使えます。量もたっぷりあり、子どものあそびには、最適な保育材料です。今後ともご協力お願いします。



## 令和4年度 5月の園だより



くまの・みらい保育園

### 子どもの気持ちになって、一緒に遊ぶことの大切さ

先日の親子参観日には、たくさんの保護者の方に参加していただき、ありがとうございました。入園、進級して3週間、まだまだ涙が出ているお子さんもおられます。「保育園ってどんなところかな?」「子どもはどんなあそびをしているのかな?」と保護者の方に知ってもらおうというねらいで、親子で一緒に保育園でのあそびを楽しんでいただきました。

乳児クラスは、園庭遊具のマップを掲示し、砂場、滑り台、ピオトープ、砂山、ラクダンなどの様々な遊具で楽しんでいました。お部屋では、ままごと、チェーン落とし、コロコロスライダー、自動車コーナーなど、子どもたちがやりたいあそびを、保護者の方も一緒に遊び、お子さんとの会話を楽しまれていました。幼児クラスでは年少はばすあそび、年中はじゃんけん列車・爆弾ゲーム、年長は縄跳びでした。

パスの巻紙を取ったり、半分にポキッと折ったり、力いっぱいのまっすぐの線やくにやくにゃの線を描いたり、てんてん、てんてんと雨を降らせたりと、親子で手をパスだらけにしてあそびました。

年中クラスではお母さんお父さんのお膝に座らせてもらって、歌を歌ったり、風船を使った爆弾ゲームやじゃんけん列車を楽しみました。まだまだお膝に座るのはとっても嬉しそうでしたね。

年長さんは3つのコーナーに分かれた縄跳びあそびで、できたらシールを貼るという、スタンプラリー形式で楽しみました。

「久しぶりに縄跳びをしました。」「こういうことでもない親子で縄跳びをする機会はありませんよね。」と言われるお母さん。おうちの方に見てもらったり、一緒に二人とびをしたり、とても微笑ましい光景でした。

今回の参観日について、前もっておたよりを配信しておりました。あるお母さんから、どんな気持ちで親子参観に参加したらよいか、ねらいがよくわかりましたと言っていただきました。子どもがこんなあそびを

喜ぶんだという事もわかったようです。月曜日、いつも泣いていた1歳児クラスの新入園児さんが、部屋に入ると、参観日の時にお母さんと一緒に遊んだチェーン落としの所に行き、ひたすら集中して遊んでいたそうです。おうちの方と一緒に遊ぶことで、このあそびおもしろいなと感じ、泣いてばかりだった子もやっと遊ぶことに目が向けられるようになったようです。お子さんの好きなあそびを知る、一緒に遊ぶことで、パスあそびの楽しさを知るなど、おうちの方も学ぶことがたくさんあった参観日だったのではないのでしょうか。ただおもちゃや道具を与えるだけでなく、大人と一緒に関わって遊ぶことが何より大切なのです。乳幼児期からしっかりかわいがられ、何かを求めている時に求めているだけ、思いを受け止めて応答的にかかわってあげていけば、大人に対する信頼感や安心感を持ち、自己肯定感が育まれ、普通の愛情で満足できる子になります。しかし、そこを十分に満たしてあげないと、常に求めるようになり、人の何倍も愛情を注がないといけなくなります。愛情を求めている時に抱っこしてあげたり欲求を満たしてあげる方が早く落ち着き、自分のやりたいことにも集中できる子になるのです。

保育園では朝から晩まで退屈することなく、目的意識をもって遊べる環境を準備していきます。楽しい環境があると、子どもたちは自分のやりたいことを自分で選び、自分で考えたり工夫するようになるのです。あそびの中で、子どもが気づいたり、発見していくことが非認知能力を育むことにもなるのです。「子どもが不思議だな～」「どうして?」と質問してきた時には、結果を教えるのではなく、「どうしてなんだろうね～」と親子で一緒に同じ立場で考えていくことが何よりも大切です。

くまの・みらい保育園 園長



## 「主体的なみらいっ子」

### さや豆・スナップエンドウを、収穫しました

年長さんが豆を収穫して、筋も取ってくれましたよ。お昼の給食に間に合うように、給食先生がゆでてくださいました。と～って



収穫した「さや豆」

やってみようと思ったことはどんどんじょうずになっていきます

### <はいるかな～?>



「せんせいのしっぽとるぞ～!」とにかく走りたいたい、疲れしらずの子どもたちです。

「むこうまでわたりたい!」毎日のように練習しています。



### <ピオトープ作り>

みんなで協力して大きな池つくりをしています。「もっとほったらんじゃない?」など相談しながら、水も慎重に入れていました。「ここに生き物いれられるかな?」

子どもたちのやりたい気持ちは、自分で挑戦したり、お友だちと話し合いながら、どんどん行動に移っていきます。